

2. 事業の概要と成果

(1) 上位目標の達成度

1. 栄養バランスのよい給餌や飼育環境（飼育場所を密室から通気性の良い場所へ変更、行き届いた清掃）など家畜管理能力が向上した。
2. 予防接種・駆虫・栄養補助餌・モット草により家畜の健康状態が向上し、搾乳量が増加（事業開始前の1L/日から2.28L/日へ）した。
3. 牛乳や副産物（ギー、バター、ヨーグルト）を自家消費できるようになり、家計の支出が平均4,788ルピー（＝2.28L/日＊70ルピー＊30日）削減された。

(2) 事業内容

本事業は3つのコンポーネントで構成されている。

コンポーネント1：生計回復

1-(ア)牛の配布

当初の想定より脆弱な状況に置かれている世帯が多く、彼らへの支援が必要であると畜産局およびFATA当局もから要請された為、配布数を32から58頭へ増加させた。配布スケジュールは下表の通り。

S No	日付	配布数
1	16 May 2017	16
2	25 May 2017	16
3	17 July 2017	12
4	26 July 2017	14
計		58

1-(イ)ユースグループの立ち上げ・研修及び市場との関係構築

選抜された20名が3日間の研修（一般的な起業家論、小規模事業立ち上げ、市場との関係構築、戦略的アプローチ）を受講した後、市場開拓を試みた。しかし、市場における既存の供給元に加え、事業対象地バラの治安を原因とする安定した供給の不確実性が事態を阻んだ。打開策として副産物であるギー（乳脂肪製品）を2,000ルピー/kg¹で首都イスラマバードにて卸すこととなった。

コンポーネント2：家畜の保護

2-(ア)予防接種

事業開始後、FAO（Food and Agriculture Organization:国際連合食糧農業機関）が引き続き本事業対象地域を含む広い地域を対象に畜産局に対してワクチンを提供することが確認された為、本事業にて予防接種を中止する旨、外務省に事業変更を提出した。

2-(イ)駆虫処置

750世帯に駆虫薬を配布した。また、1年次に54名の駆虫要員へ配布した注射器の使い方を指導し、コミュニティでの駆虫作業を進めた。
クリミア・コンゴ出血熱（Crimean-Congo hemorrhagic fever）への予防対策として、犠牲祭前に37,500頭を対象に殺虫剤を噴霧した。

2-(ウ)家畜飼料配布

下表の通り飼料を配布した（含：牛を受領した58世帯）。

S No	日付	配布世帯
1	10 May, 2017	250 HH
2	17 May, 2017	198 HH

¹ イスラマバードでの平均卸価格

3	24 May, 2017	302 HH
計		750 HH

その他の活動

1. 疥癬治療と啓発

5月に3日間かけ畜産局が計193の家畜（大型家畜：123・小型家畜：70）の治療を行い、当団体は疥癬予防にかかる啓発を実施した。

2. モット草

Animal Husbandry In-service Training Institute (AHITI)等から提供されたモット草（繁殖が容易で栄養分が豊富）の苗を、2回に分けてターゲット世帯のうち計114世帯に配布した（17年8月、18年2月）。8月に配布し4~6ヶ月かけ成長したモット草の苗は、未受領であった13世帯にわけられた。モット草の栽培には十分な土地と水が必要となるため、750全世帯が栽培できる状況にある訳ではない。

コンポーネント3：家畜管理に関する意識向上

3-(ア) 研修・セッション

家畜飼料配布時に、給餌方法や駆虫についての30分のリフレッシュセッションを行った。

日付	場所	参加者数
10 May 2017	Toot Taalab-Aka Khel	250
17 May 2017	Toot Taalab-Aka Khel	198
24 May 2017	Goud Malang-Aka Khel	302
計		750

この地域では女性が家畜の世話をすることが多いことから、対象地域における家畜管理スキルの向上において女性への研修は非常に重要である。今年度は、新規に女性獣医オフィサーを雇用し、家庭における家畜管理に関して女性裨益者をサポートし、研修後には女性裨益者のフォローアップ訪問を実施した。

3-(イ) 生計回復委員会 (Livelihood Recovery Committee (LRC)) 充実化と研修

第1年次で設立されたLRCを研修受講済の6畜産指導員 (LEWs: Livestock Extension Workers) と4畜産局スタッフ計10人を加え15人構成とし、2日間の研修を行った。畜産局を含む現地行政や現地NGO (SRSP-Sarhad Rural Support Program) と引き合わせ、家畜の健康管理や農畜産用水供給などJEN撤退後のサポート体制への道筋をつけた。なお、LRCメンバーの畜産局スタッフが人事異動で当地を離任することになっても、後任スタッフがLRCメンバーとなる旨畜産局と合意済である。

3-(ウ) 品種の改良

LEWs 6名と畜産局職員4名は7月から2ヶ月間の研修（人工授精、応急処置、家畜の管理など）を受講し、その後、対象地域において人工授精が開始された。今年はFAOが600頭の牛にジャージー種の精子を提供し、当団体は受精率を高めるホルモン剤を同規模提供した。なお、予防接種と同様に本変更は6月に承認済みである。

(3) 達成された成果

コンポーネント1：生計回復

計画	達成成果
32 の最脆弱世帯に32 頭の牛配布	58 の最脆弱世帯に58 頭の牛配布
20 名がユースグループメンバーに選抜され研修を受講する	20 名がユースグループメンバーに選抜され研修を受講した

コンポーネント2：家畜の保護

計画	達成成果
750 世帯の家畜が予防接種を受ける	FAO からワクチンを受け取った FATA 家畜局が対象地域における家畜への予防接種を実施したため、当団体による予防接種は中止した。
750 世帯の家畜への駆虫薬配布	750 世帯の家畜への駆虫薬配布
クリミア・コンゴ出血熱対策としてダニ駆除のための殺虫剤の噴霧	犠牲祭が始まる前のタイミングで、37,500 頭の家畜に対してクリミア・コンゴ出血熱対策としてダニ駆除のための殺虫剤の噴霧
750 世帯への家畜飼料配布	750 世帯へ各世帯 3 袋 (37 kg / 袋) のワンダ配布を実施

コンポーネント3：家畜管理に関する意識向上

計画	達成成果
750 世帯に対しリフレッシュセッションを実施	750 世帯に対しリフレッシュセッションを実施
生計回復委員会 (LRC) の充実化と研修実施	計 10 名を加え 15 名構成とし、2 日間の研修を行った
600 頭がジャージー種との交配の為人工授精を受ける	600 頭がジャージー種との交配の為人工授精を受けた

(4) 持続発展性

以下により、本事業の持続発展性が担保された。

1. 畜産局が人工授精を継続する。これにより、当地における家畜の乳量及び副産物生産量が高まる。
2. 大小家畜への予防接種が畜産局により継続される。FAO が大型家畜用の、畜産局が小型家畜用のワクチンを提供することが決議されている。
3. ジャージー種との交配で生まれた仔牛はより丈夫で乳量が増える為、裨益世帯の収入向上や食糧安全保障につながる。
4. 家畜 4 頭以上を有し、家畜管理ややる気の面で優れた 5 世帯が畜産局のバイオガス・パイロットプロジェクトの対象として選抜された。提供された機材を用いることで、牛糞を燃やして発生したガスはコンロの火にも、発電としても用いることができる。抑えられた家計費で、家畜の健康・衛生状態を良好に保つための支出や、家畜数そのものを増やす支出にも費やせる。
5. LRC が人工授精や予防接種などにつき畜産局と密接に連絡調整をはかる。本事業後も応急処置や人工授精実施時のサポート役を担う LEWs の連絡先は、畜産局に共有されている。
6. 長老の監督の元、ユースグループが収入創出のためギーを市場に卸す活動を継続する。コミュニティへのギー生産呼びかけを LRC も協力し、ユースグループがイスラマバードの市場に卸しに行く旨、関

	係者間で合意済みである。 7. LRC が国際 NGO や政府との連携を継続していく。 8. LRC がモット草の栽培や共有につき監督していく。
--	---